



キャピン

5月で〜了。

ゴールデンウィークはどう過ごされましたか？

春のG.Iレースも中盤→後半になります

(ご覧された時は終了している?)

良い結果になればいいですけど、現時点では不明です。

ニハウ。段々と暑くなる日が近づいて来ますから、

気を付けて頑張りましょう!!

紙の変色について

今回は紙の変色について紹介したいと思います。

書籍の劣化が起る原因とは？

書籍の劣化が起る原因はひとつではありません。大きく分けると内的な原因と外的な原因があります。では考えられる主な原因を挙げてみましょう。

紙に含まれる劣化成分

そもそも書籍に用いられている紙そのものに、劣化を引き起こす成分が含まれていることをご存知でしょうか。

具体的に言うと、紙の原料となる木材に含まれているリグニンという成分、そして紙の製造工程で用いられた硫酸アルミニウムです。

リグニンは、木材がもともと持っている成分です。簡単に説明すると、木が強く頑丈な幹を作るためにリグニンは重要な働きをします。しかし困ったことに、このリグニンは光に触れると変色する性質があるのです。

丁寧に漉き込まれた日本伝統の和紙と違い、木材を機械で粉砕して作るパルプを原料とする洋紙には、このリグニンが多く含まれています。リグニンが特に多く含まれている新聞紙が、時間の経過とともに黄色く変色していくのはこれが原因です。

もう一つ硫酸アルミニウム

硫酸バンドは、かつて洋紙の製造工程でインクのにじみ止め効果を目的に用いられていた薬品です。この製造工程を経て作られたのが酸性紙と呼ばれる紙です。

硫酸アルミニウムは、水分と反応して硫酸を発生させます。硫酸ですから、当然紙そのものを破壊していきます。少し専門的な説明をすると、硫酸が紙の繊維であるセルロースを加水分解してしまい、紙の強度が弱くなってしまいます。

古い書籍の紙が、ばりばりと硬く、触っただけで割れてしまうほどもろくなっているのは、このように紙が酸化してしまっているためなのです。

現在では書籍に用いられる上質紙は、基本的にすべて硫酸アルミニウムを使わずに製造された中性紙となっています。そこまで劣化が素早く進むということはありません。しかし酸性紙が問題視され、中性紙の開発が進んだのは1980年代あたりからです。当然それ以前に作られた貴重書は、酸化しやすい成分を含んでいる可能性が高く、保管には十分な注意が必要です。



MY

以上、MYでした
(ネットより)

よもやまばなし

阜月：菖蒲の間

春、飛び越えて夏を感じるこの頃、新しいTVドラマも始まり、季節の変わり目を感じますね。UEDAも新ドラマのチェックに大忙しでした。ドラマを見たら、次の日感想を言い合う・・・ようなことは、学生時代によくありましたね。こちらはまだやっております。楽しいですからね。



「静岡で一番高いビル」にあるホテルに宿泊しました。地上43階。普段平野のど真ん中に住んでいる自分には超絶非日常体験でした。夕方(左)には「おースゲー」、夜(右)は「わースゲー」ってなりました。

スマトラトラ

IUCN

レッドリスト

CR

(深刻な危機)

LC NT VU EN CR EW EX



ネコ科のみんな*に会いたくなり

数十年ぶりに東山動物園へ。

工夫を凝らした新しい施設とともに

絶滅危惧種に関するパネルや表示が目を引いた。

*スマトラトラ ライオン
ジャガー(ブラックも神秘的)
ユキヒョウ サーバル スナドリネコ
マヌルネコ(現れなかった)
ツシヤママネコ(見逃してしまった)
など



高い
は
楽しい
!



やま